

大阪私学
教育情報化研究会



一般財団法人
草の根サイバーセキュリティ運動
全国連絡会
Grass roots Activity for cyber
Security - JAPAN

高校生 ICT Conference 2017

in 神奈川

高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～

開催報告書

2017年9月10日（日） 10:00-17:00

【会場】学校法人岩崎学園 横浜西口2号館

主催

特定非営利活動法人 NPO 情セキュリティフォーラム
安心ネットづくり促進協議会
大阪私学教育情報化研究会
一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁



2017

（高校生 ICT Conference は経済産業省等が主宰する「情報化月間 2017」の登録行事です）

目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2017 地域開催.....	4
3. 高校生 ICT Conference 2017 in 神奈川 開催概要.....	5
4. 主担当.....	9
5. 高校生 ICT Conference 2017 サミット.....	9
6. 高校生 ICT Conference 最終報告会.....	9
7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応.....	9

1. 開催概要

名 称：	<p>高校生 ICT Conference 2017</p> <p>テーマ：高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～</p>
主催：	<ul style="list-style-type: none"> ● 安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会
共催：	内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁
後援：	<p>神奈川県、神奈川県教育委員会、</p> <p>一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、</p>
協賛：	<p>グーグル株式会社、株式会社サイバーエージェント、株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社ラック、グリー株式会社、LINE 株式会社、インテグラル株式会社、エースチャイルド株式会社、一般社団法人情報教育研究所、Twitter Japan 株式会社、株式会社ベルパーク、株式会社メディア開発綜研</p>
協力：	<p>アルプスシステムインテグレーション株式会社、株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、特定非営利活動法人浜松子どもとメディアリテラシー研究所、ストップイットジャパン株式会社</p>
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>【本年開催テーマのコンセプト】</p> <p>IT やインターネットは、その発明の理由は別としても、民間利用においては、それらの技術を用いることで、人々の生活や事業をより効率よく、便利に営めることを目的としています。情報技術に限らず、多くの発明品は同様の背景を持ちながらも、便利さゆえに、安易な利用や悪事への利用などにより、本来の目的にはそぐわない結果を及ぼすこともあります。今年度の高校生 ICT Conference では、私たちの生活を更により良くするために、どのように ICT を利活用すれば良いか、という</p>

	<p>視点でテーマを設定しました。当然ながら、有意義な利活用とは表裏一体で、負の側面についても配慮が必要であり、より心豊かな生活を実現するために ICT の利活用における「光と影」について、次世代を担う高校生が自ら考える機会とすることを目的とします。</p> <p>※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成 23 年度の小学校を皮切りに、平成 24 年は中学校、平成 25 年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しい ICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全に ICT を利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取り組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表（プレゼン） (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地 募集人員等：	<p>募集参加生徒 30 名（各開催地により変動あり） 募集見学者各回 30 名（各開催地により変動あり）</p>
参加参観方法：	<p>参加費・参観無料 [要事前登録]</p>
高校生 ICT Conference2017 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長） <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会理事・消費者団体訴訟室長） ・ 猪股 富美子（お茶の水女子大学 人間発達科学研究所） ・ 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） ・ 小城 英子（聖心女子大学） ・ 齋藤長行（青山学院大学 株式会社 KDDI 総合研究所） ・ 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】 安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号 斎藤ビル 2 階</p>

2. 高校生 ICT Conference 2017 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

	地域	開催日時	会場
地域 開催	北海道（札幌）	2017年10月22日（日）11:00-17:00	札幌ユビキタス協創広場 U-cala
	北海道（帯広）	2017年10月15日（日）11:00-17:00	とちろプラザ
	宮城	2017年10月21日（土）10:00-17:00	東北工業大学 一番町ロビー
	石川	2017年9月23日（土）10:00-17:00	石川県教育会館
	長野	2017年9月30日（土）10:00-17:00	安曇野市明科公民館
	新潟	2017年8月17日（木）11:00-17:00	新潟コンピュータ専門学校
	東京	2017年10月7日（土）10:30-17:00	東京ユビキタス協創広場 CANVAS
	神奈川	2017年9月10日（日）10:00-17:00	学校法人岩崎学園
	静岡	2017年9月23日（土）10:00-17:00	静岡電子情報カレッジ
	三重	2017年9月30日（土）10:00-15:00	三重県庁
	大阪	2017年9月24日（日）10:00-17:00	大阪ユビキタス協創広場 CANVAS
	奈良	2017年10月1日（日）10:00-17:00	帝塚山大学 学園前キャンパス
	高知	2017年8月14日（月）9:30-16:30	高知県教育センター分館
	山口	2017年9月24日（日）10:00-17:00	サビエル高等学校
	福岡	2017年8月26日（土）11:30-17:00	都久志会館
	大分	2017年8月27日（日）10:00-16:00	アイネス、大分県消費生活・男女共同参画プラザ
鹿児島	2017年8月26日（土）10:00-17:00	鹿児島大学	
東京サミット	2017年11月3日（金）13:00-17:00	東京電機大学 千住キャンパス	
最終報告会	2017年12月11日（月）	関係省庁	

東京サミットへは各地域で独自で実施した情報モラル・リテラシー啓発サミットからのオブザーバー参加者を招待予定。（サミット熟議のみ参加）※2016年度実績：沖縄、福井

3. 高校生 ICT Conference 2017 in 神奈川 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など71名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活～ICT×(家族・学校・地域)～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>司会進行 NPO 情報セキュリティフォーラム 柿本 圭介 様 高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶 経済産業省 商務情報政策局 情報経済課 課長補佐 岡北有平 様 少子高齢化社会に向けて、経済産業省としては、テクノロジー（新しい技術）を推奨している。 タクシーの自動運転、ドローンなどの技術で労働力はカバーできるが、また新しい雇用が産まれる。 今後はテクノロジーとどのように付き合っていくかを考える事が重要である。</p> <p>総務省 関東総合通信局 情報通信部 部長 山下 朝文 様 総務省関東総合通信局の取組みについてお話し頂き、ICTカンファレンスとの関係をお話し頂いたのち、テーマについてお話し頂きました。</p> <p>第一部 事業者による講演</p> <p>① グリー株式会社 安心安全マネージャー 小木曾 健 様 本日のテーマに沿って議論を行う上で共通認識を合わせることが大切だが、心豊か、すなわち「幸せ」とは人それぞれ価値観が違い、基準を合わせることは難しいことについてお話しをいただきました。その上で、自分にとっての心の豊かさについてしっかりと考え議論に入った方がよいとのアドバイスをいただき、ICTがこれからどんな環境を与えてくれるのかについてもご紹介をいただきました。最後に、「日常生活とICTの境目がなくなる」という表現は間違いで、すでに「日常生活とICTの境目はなく、今でもつながりっぱなし」であるというご説明をいただき、物事の本質を忘れないことが大切であるとのお言葉をいただきました。参加した生徒はしっかりとメモを取りながら、午後の熟議に向けての準備をしていました。</p> <p>②株式会社ディー・エヌ・エー デライトドライブ本部カスタマーサービス部 山田勝之 様 インターネットの今後の発展にあわせて、出会い、個人情報管理、情報発信、コミュニケーショントラブルなど事例を紹介しながら説明頂き、回避策について講義頂きました。</p>
----	--

	<p>学校紹介 参加 8 校より、学校の紹介をそれぞれ行っていただきました。</p> <p>グループ分け、自己紹介 7つのグループに分かれ、各グループ内で自己紹介などを実施しました。</p> <p>第二部：熟議「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」 グループに分かれ、卒業生や専門学校生、教育委員会の方がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。</p> <p>第三部：グループ発表 各グループともプレゼンテーションソフトを活用して 3 分程度の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）</p> <p>その後、参加生徒により、11 月 3 日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、「クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス」が代表校に選出され、発表されました。</p> <p>講評：情報科学専門学校 教務部長 川上 隆 様 今回のテーマの中である「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」と難しいテーマに対しての真剣な討議についておほめの言葉を頂いた後、各グループ 1 つ 1 つについて講評いただきました。</p>
参加校：	<p>クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス 神奈川県立大和南高等学校 神奈川県立神奈川工業高等学校 緑ヶ丘女子高等学校 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 日出学園中学校・高等学校 鎌倉女学院高等学校 神奈川県立藤沢清流高等学校（順不同）</p>
日 時：	2017 年 9 月 10 日（日） 10:00-17:00
場 所：	学校法人岩崎学園 横浜西口 2 号館
参加人数：	<p>熟議参加生徒 34 人 見学者・関係者 37 人（教員・教育関係者・その他） 合計：71 人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）</p> <p>【1 班】 5 名 神奈川県立神奈川工業高等学校 2 年女子、神奈川県立大和南高等学校 3 年女子、鎌</p>

倉女学院高等学校 1年女子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 2年男子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 1年男子

〔ファシリテーター〕

神奈川県教育委員会 橋本 雅史

〔書記〕

情報科学専門学校 赤谷 未来

【2班】 4名

神奈川県立藤沢清流高等学校 1年女子、クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス 2年女子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 2年男子、神奈川県立神奈川工業高等学校 2年男子

〔ファシリテーター〕

神奈川県立総合教育センター 小澤 美紀

〔書記〕

情報科学専門学校 結城 真菜

【3班】 5名

クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス 2年女子、神奈川県立神奈川工業高等学校 3年女子、日出学園中学校・高等学校 2年男子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 1年男子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 2年男子

〔ファシリテーター〕

鎌倉女学院 OG 佐々 日向子

〔書記〕

情報科学専門学校 長田 剣将

【4班】 5名

クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス 2年女子、神奈川県立神奈川工業高等学校 3年女子、日出学園中学校・高等学校 2年男子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 1年男子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 2年男子

〔ファシリテーター〕

鎌倉女学院 OG 井出 凧砂

〔書記〕

情報科学専門学校 水野 源帥

【5班】 4名

神奈川県立藤沢清流高等学校 1年男子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 1年男子、鎌倉女学院高等学校 2年女子、日出学園中学校・高等学 2年女子

〔ファシリテーター〕

NPO 情報セキュリティフォーラム 中島 尚樹

〔書記〕

情報科学専門学校 玉村 響

【6班】 5名

クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス 3年男子、鎌倉女学院高等学校 1年女子、神奈川県立大和南高等学校 3年女子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 1年男子、神奈川県立藤沢清流高等学校 1年男子

〔ファシリテーター〕

NPO 情報セキュリティフォーラム 下條 秋太郎

〔書記〕

情報科学専門学校 鶴田 智貴

【7班】 5名

神奈川県立藤沢清流高等学校 1年男子、クラーク記念国際高等学校厚木キャンパス 3年男子、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 2年男子、神奈川県立大和南高等学校 2年女子、鎌倉女学院高等学校 1年女子

〔ファシリテーター〕

NPO 情報セキュリティフォーラム 佐藤 初枝

〔書記〕

情報科学専門学校 佐々木 勁太

4. 主担当

NPO情報セキュリティフォーラム	会場、会場設営、食事提供、交通費提供、司会、ファシリテーター、書記、庶務 他
安心ネットづくり促進協議会	事務局、受付
府省庁、各団体、事業者等	挨拶、講演、ノベルティ、資料提供 他

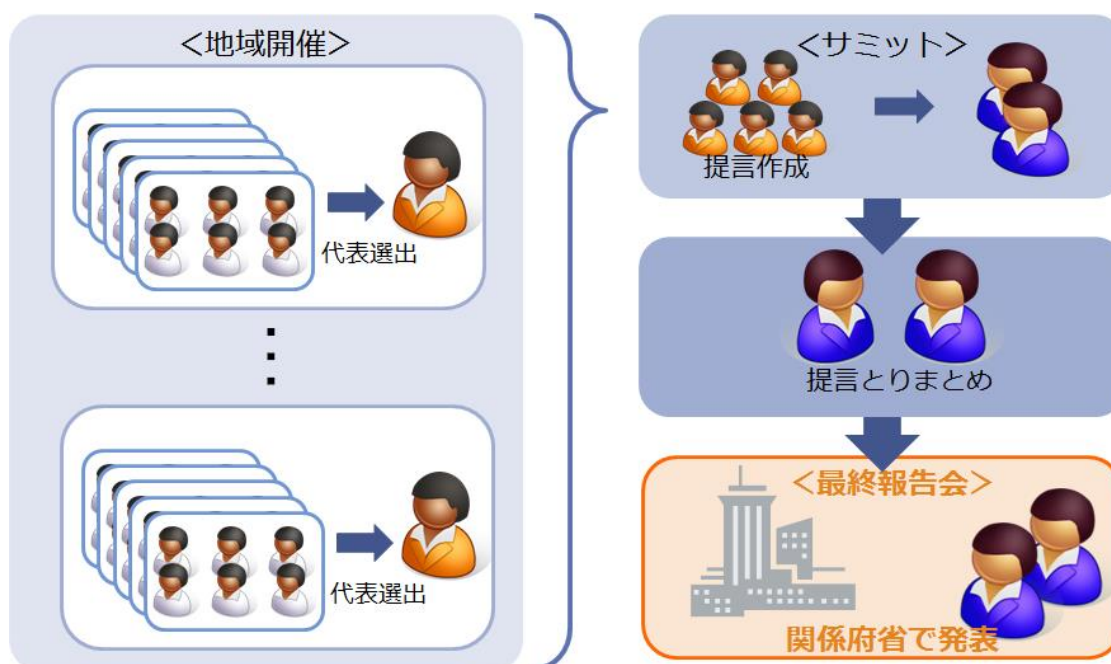
5. 高校生 ICT Conference 2017 サミット

高校生 ICT Conference 2017 サミットは、各地で開催された Conference の成果を高校生の代表として提言をまとめるための場です。その代表者の選考は以下の手順によります。

- 1) 参加が決まった場合、参加生徒を決めていただき、事前に登録をする
- 2) 熟議終了後、参加生徒の投票を基に代表を選出
- 3) 各地の代表者でサミット開催
- 4) サミット終了後、最終報告会で発表する代表を上記手順と同様に選出
- 5) 最終報告会代表者が、サミットの内容を提言にまとめ、最終報告会で提言発表を行う

6. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2017 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめ、関係府省庁にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを踏る。



7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表資料保存（又は模造紙など発表紙面の撮影）
- 2) Conference 終了後、発表内容、講評と併せて高校生 ICT Conference のサイトにアップデート
- 3) 高校生 ICT Conference 2017 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2017 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 5) 最終報告会での発表

以上